

2019年12月期

第1四半期決算報告資料

株主・投資家の皆様には、平素より格別のご支援ならびにご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

当社は、2015年3月19日に東京証券取引所マザーズ市場に上場し、その後、2016年12月21日に東京証券取引所市場第一部へ市場変更いたしました。

インターネットをもっと使いやすくしたい、そんなシンプルな想いからはじまり、“豊かなネット社会を創る”という理念を掲げて進んでまいりました。特に Web マーケティングの分野においては、独自の特許技術に基づく自社製品を数多くリリースでき、多くの素晴らしいお客様とのご縁をいただきました。

私たちは、上場後3年が経過し、長年親しんだ赤坂から六本木に事業拠点を移すタイミングで、新たな成長エンジンを生み出すべく、「第二創業」というコンセプトで経営改革に取り組みます。2019年1月より私はこの第二創業の陣頭指揮を取るべく、代表取締役役に就任いたしました。従来型の概念や過去の資産にとらわれず、まさに創業期のようなスピードと実行力で、ショーケースの持ち味を生かした、様々な新しい取り組みに挑戦していきたいと思っております。

私たちのビジョンは、“おもてなしテクノロジー”で、人を幸せにする”です。技術によって、もっと未来は明るくできると信じています。技術によって人の持つ様々なペインを解消し、より充実した人生を送ることができるよう支援できると考えています。

その実現のためにも、更なる業容の拡大と企業価値向上を図り、株主様をはじめとする多くのステークホルダーの皆様のご期待にお応えできるよう全力を尽くします。今後も、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ショーケース
代表取締役社長 永田 豊志



SHOWCASE

第二創業 経営コンセプト

- 本業回帰（マーケティング SaaS 分野）
- 収益性が高い商品へ集中投資
- 有力企業とのアライアンス
- 経営スピードアップと高い生産性
- 企業ブランディング向上

2021

日本一の SaaS クリエイター
になり、時価総額 300 億円以上

主力のマーケティング SaaS 事業と広告メディア事業は前年同期比で堅調推移。
事業提携によるソリューションサービス（「その他」セグメント）も昨年を上回る成長が続いている。

	売上高	前年同期比	総利益	前年同期比
マーケティング SaaS 事業	280	➤ 104.6%	220	➤ 134.1%
広告メディア事業	84	➤ 142.5%	25	-
HR 事業	10	-	1	-
投資事業	0	-	▲65	-
その他	34	➤ 21.6%	13	➤ 140.6%

単位：百万円

【事業セグメントの変更について】

第二創業では、マーケティング SaaS 事業をショーケース、人材関連事業をレーザービーム、投資事業をショーケース・キャピタルが行うシンプルな体制としました。それに伴い株主の皆様にご理解頂きやすい、組織体制に合わせた事業セグメントへ変更いたしました。

第1四半期は6つのサービスとプロダクトをリリース。

HR



Google しごと検索に対応できる求人検索最適化

自動化

Google スプレッドシート業務自動化サービス

自動化プログラムによる業務効率化支援

広告



共感型ネット CM 動画
投稿プラットフォーム

SHOWCASE Ad

スマホアプリ対応リワード形式
動画広告プラットフォーム

アイモバイル社との共同事業

企業・商品ブランド効果を可視化する
動画広告プラットフォーム

リレイド社との共同事業

セキュリティ対策

ZEIJAX

機械学習・AI を活用した脆弱性診断

不採算サービスの停止等によるリスク資産の圧縮。

低収益事業を整理し、
高収益事業と新事業に集中投資

停止サービスに関して
ソフトウェア資産の除却及び減損

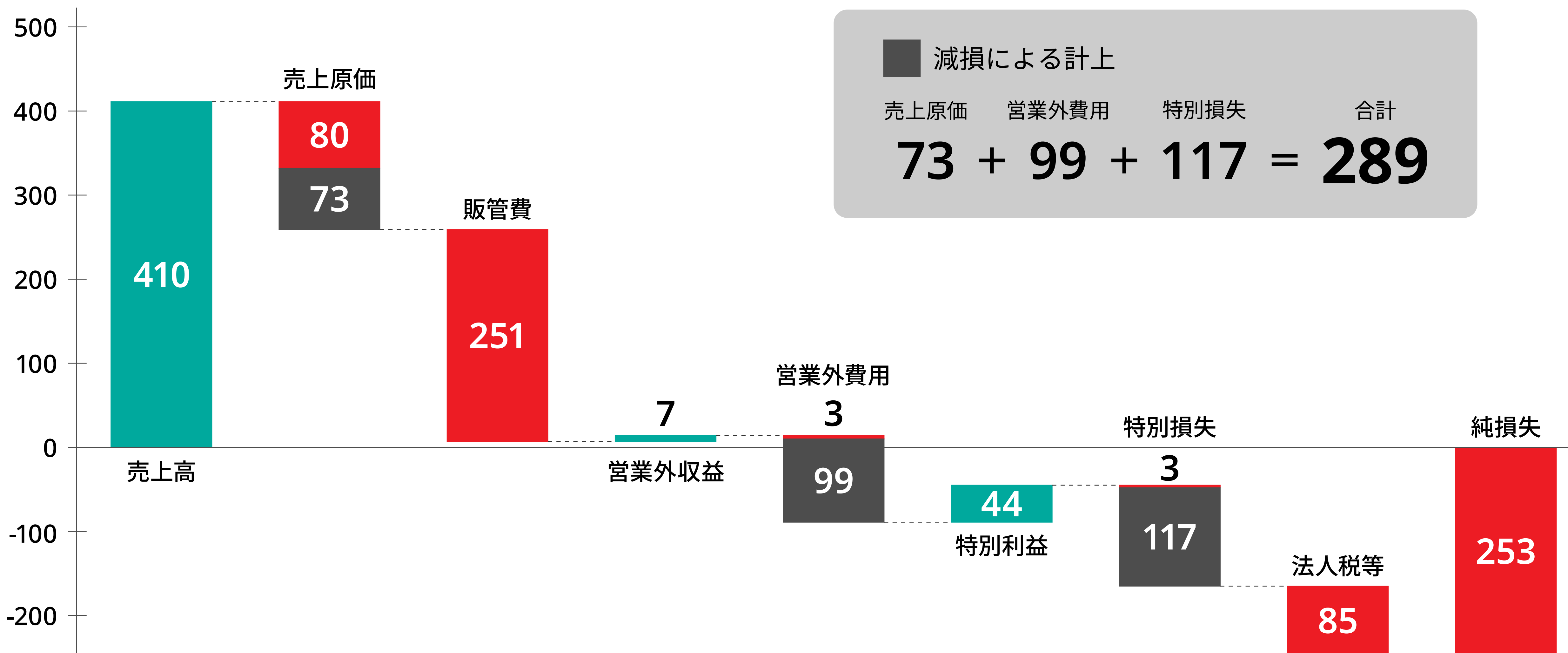
投資有価証券等の売却活動は今後も継続

リスク資産処理一覧

売上原価	73 百万円	営業投資有価証券の評価損 および不採算サービス停止に 伴うソフトウェア一括償却
営業外費用	99 百万円	関連会社の株式評価損に 伴う損失処理および貸付金 にかかる貸倒引当金の計上
特別損失	117 百万円	不採算サービス停止に伴う ソフトウェアの減損・除却 および投資有価証券の評価損
合計	289 百万円	

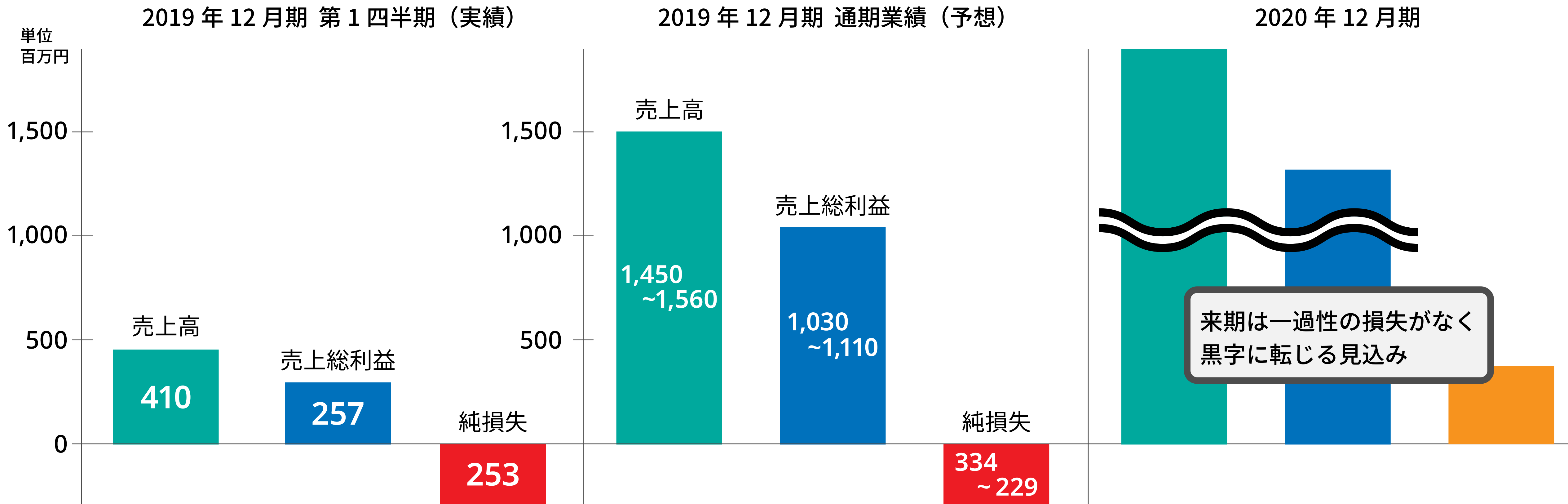
既存事業は堅調だが、減損による影響でマイナス2億5300万円の純損失。

単位：百万円



2019年12月期通期業績予想

第1四半期の減損処理と新事業の集中投資のため、赤字での着地予定。



2019年12月期 通期業績（予想）	連結売上高	営業利益	経常利益	当期純損失	1株あたり当期純損失
	1,450 ~ 1,560	▲85 ~ 20	▲180 ~ ▲75	▲334 ~ ▲229	▲49.3円 ~ ▲33.8円

第1四半期決算による EBITDA は 30 百万円。
 連結貸借対照表は、減損処理等により「その他投資等」が圧縮。

連結損益計算書

	2019年12月期 第1四半期	2018年12月期 第1四半期
売上高	410	489
総利益	257	357
販管費	251	313
営業利益	5	44
経常利益	▲90	43
特別利益	44	0
特別損失	120	44
EBITDA	30	83
親会社株主帰属純利益	▲253	▲31

単位：百万円

連結貸借対照表

	2019年12月期 第1四半期	2018年12月期 通期
流動資産	1,782	1,787
固定資産	505	748
有形固定資産	99	39
無形固定資産	75	113
その他投資等	330	596
総資産	2,288	2,535
流動負債	682	629
固定負債	728	724
純資産	878	1,181

単位：百万円

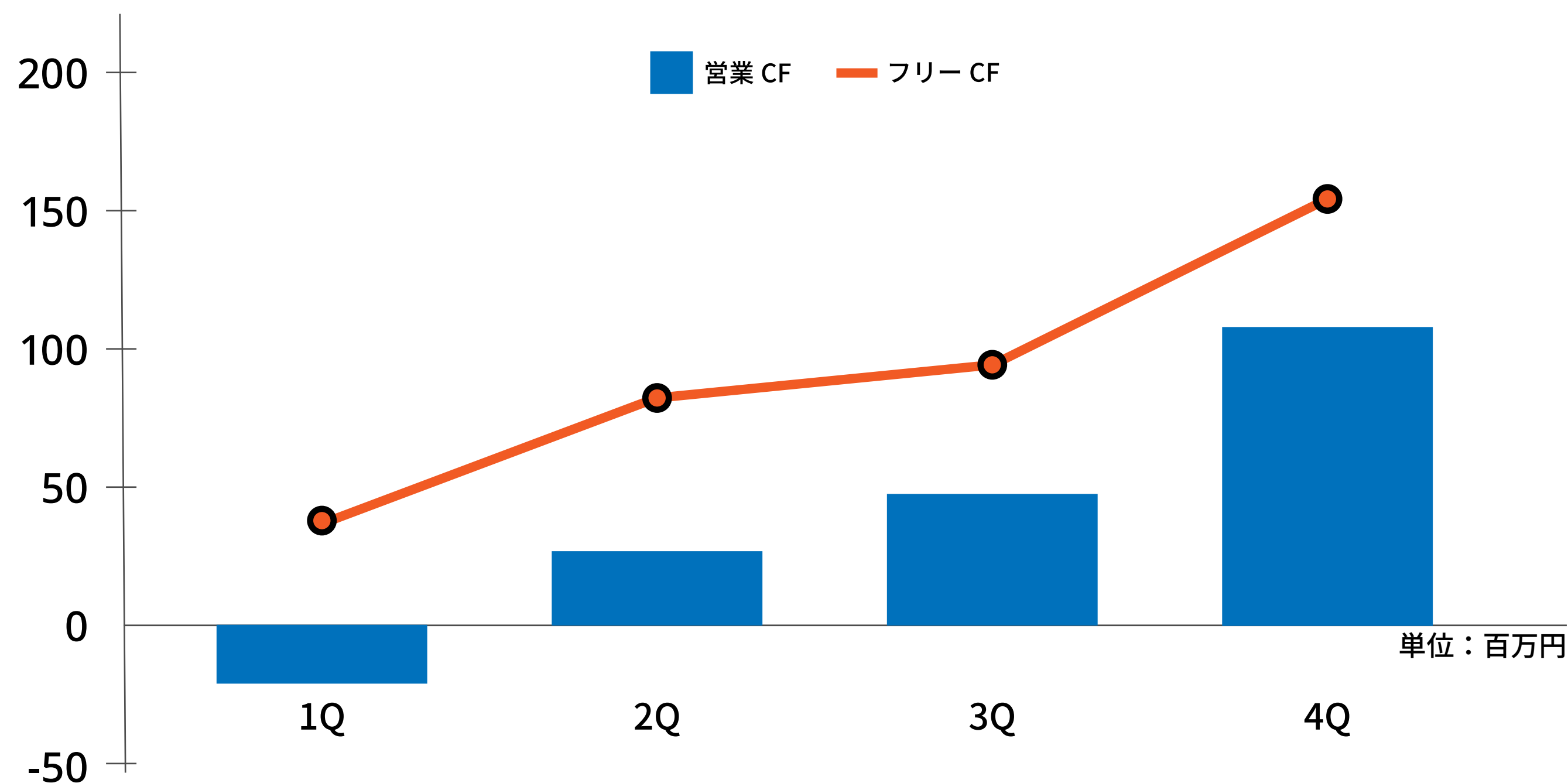
フリーキャッシュフローは1億円以上のプラスとなり、期末配当の復配を予定。

連結キャッシュフロー計算書

	2019年12月期 第1四半期	2019年12月期 通期(予想)
営業CF	▲19	102
投資CF	26	51
フリーCF	7	154
財務CF	34	▲66
現金及び現金同等物の 増減額	42	87
現金及び現金同等物の 期首残高	1,407	1,407
現金及び現金同等物の 期末残高	1,450	1,495

※連結キャッシュフロー計算書については開示しておりません。

単位：百万円



期末配当金

5.5 円

本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

従いまして、実勢の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性があります。

ご了承ください。